

○確かな学力を身につけ、「今の自分以上」をめざす児童の育成
～協働的な学習と個別最適な学びを融合した授業の実践～

学力向上推進員
教務主任

委員
校長 副校長 教務主任 特支コ
体育主任 生徒指導 人権主事
養護助教諭

校長

【各校の取組状況の把握について】

各種研修や管理職による授業参観等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して真面目に取り組む児童が多く、基礎的・基本的な知識・技能が身につく。 ●語彙数が少なく、文章の読み書きに課題がある。 ●読書時間が少なく、読んでいる内容に大きな差がある。	・読み書きや、計算の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ・わからない言葉を辞典を活用して調べたり、文章を理解したりすることができる。 ・読書に進んで取り組むことができる。	・朝の活動の時間を活用し、漢字・計算などの学習を継続して行う。 ・国語辞典や漢字辞典を活用させたり、調べた言葉をタブレットでまとめたり、教科書にアンダーラインを入れさせたりするなど工夫をし、文章の内容を正しく理解できるようにする。 ・教科内容と関連する図書を紹介したり、学級文庫の掲示の工夫をしたり、図書室に行く機会を増やしたりするなどの工夫をする。	・図書室の本の精選を行ったり、配置の仕方を工夫したりして、児童の読書意欲を高めるような工夫を行う。	・漢字の読み書き・計算の基礎的・基本的な知識・技能は、単元終末時にはできているが、時間をあけると忘れてしまう児童が多く、全体的に定着までには至らなかった。 ・文章を読む際には、教科書にラインを引かせたり、キーワードに○を付けたりすることを取り入れたことで、内容を正しく読み取ったり文章の構成を捉えたりすることができるようになってきた。 ・読書意欲を高める工夫を行い、図書室へ通う児童の数が増え、読書に親しむことができた。	・基礎・基本の定着に課題が見られる傾向が続いていることから、朝の活動だけでなく、授業中・宿題などでも定着を図る取り組みをする。 ・学習アプリやプリント等を活用し、単元ごとの復習を定期的に行うようにする。 ・読書に親しむ中で、自分にあった内容の本を選んで読むことができるよう、並行読書ができる環境作りを継続していく。

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを伝えようとする意欲が見られ、ICTの活用により多様な表現方法を身につけた児童が多い。 ●自分の思いや考えをまとめて、相手にわかりやすく表現することに課題がある。	・人の話をしっかり聞き、理解したうえで自分の考えを述べるができる。 ・目的や条件に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、書いたり話したりして伝え合うことができる。 ・多様な表現方法を知り、自分に合った表現ができる。	・発達段階に応じて考える場面を設定したり、根拠と一緒に自分の考えを発表できるよう机間巡視で声掛けを行い、考えを深めさせる。 ・ICTを効果的に活用し、多様な表現方法ができるようにする。	・家庭学習で行った活用問題の解説をする。 ・児童の作文や自主学習等を共有できるようにし、良いところを真似しながら表現力を伸ばせるようにする。	・話し合い活動を継続的に行ったことで、話し合いの進め方や伝え方を身につけることができた。また、目的意識や相手意識を持って、自分の考えを理由を述べながら話したり、表現物に表したりすることができるようになり、文章をまとめる際に、自分が伝えたいことに応じた資料を選んで表現することができた。 ・自分のノートと友達のノートを比較させ、気づきを促したことで、よりよい表現の仕方や伝え方ができるようになってきた。	・授業の中で調べたことや、わかったことをまとめるだけでなく、発表させたり説明させたりする機会を設けることで、児童一人ひとりの気づきの質やより深い理解に繋げることができるようにする。 ・学習で取り組んだ成果物を、児童全員が見ることができる場所を設けることで、学習の見通しや復習ができるようにする。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に一生懸命取り組むことができる。 ○家庭学習に真面目に取り組む、自主学習にも意欲的な児童が多い。 ●自主学習の課題設定の仕方に課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・家庭学習は各学年で目標としている時間(低学年30分、中学年45分、高学年60分)以上取り組む。 ・自主学習では、自分の生活や課題に結びつくテーマを考えたり、選んだりして取り組むことができる。	・主体的に学習に取り組む力を育むため、授業の流れを示すなど児童が見通しをもって学習できるように全校で統一して取り組む。 ・保護者と「家庭学習の手引き」の共通理解を図り、毎週末家庭に本を持ち帰らせ、児童が家庭学習や読書(新聞)を習慣化できるようにする。 ・自主学習(ステップアップ学習)では、今後の自分の生活に生かせる課題を設定できるような働きかけを行う。	・週に1回、家庭学習で学力向上確認プリント等の活用問題に取り組ませ、多様な問題に触れる機会を作る。 ・児童が目的意識を明確に持って自主学習に取り組むことができるよう、動機付けを行う。	・各教科の学習に真面目に取り組む、自分の気づきを分かりやすくまとめたノート作りを行う児童や、課題に対して意欲的に取り組んだり、+αで自分の学習を進めようとする児童が増えてきた。 ・毎週末家庭読書を行うことで、読書に対して抵抗を持つ児童が減り、楽しんで本を選んだり読んだ本について語り合うことができた。 ・「家庭学習」については、目標時間取り組めた児童は少なく、保護者アンケートでも「家庭学習をしている」という項目の評価は60%程度だった。	・家庭との連携をより強化するため、学期に1回程度、児童の成果物を共有してもらう機会を設ける。 ・自主学習については、次年度どのように取り組んでいくか考えていく。

令和5年度 学力向上ロードマップ

